



新発田総局  
〒957-0052  
新発田市大手町 4-4-6  
0254(22)2430  
FAX(26)6035  
n-shibata@niigata-nippo.co.jp

阿賀町豊実の里山を舞台にした恒例の「里山アート展」が開かれている。同所の彫刻家、佐藤賢太郎さん(75)らが、こだわりのある縄文時代をテーマにして制作した作品が、福島県境に近い里山の景観に融合している。里山アート展は20回目となる今回が最後。一方で佐藤さんは「縄文を中心とした生き方をこれからも展開したい」と、熱意は衰えない。

## 「自然と共存」「人集う」追求 彫刻家・佐藤さん 今20回目で区切り



最後となった里山アート展の会場にユキツバキを植樹をする関係者。周辺では竪穴住居の制作が進む。阿賀町豊実

### 阿賀・豊実「里山アート展」

# 縄文息づく地域豊か

里山アート展が開幕した8日、佐藤さんは来場者の前に「仲間がいたからできたこと」と感謝の言葉を述べた。

へ、高齢を理由に今回で終了すると伝えた。来場者からは、ねぎらいとともに今後の期待を込めた言葉が贈られた。出席者で阿賀町ゆかりのユキツバキを植樹した。

里山アート展は、アートや農業で地域づくりを目指す佐藤さんが設立したNPO法人「コスモ夢舞台」が主催する。土地の資源を生かしながら「人が集まる場になりたい」と願い、佐藤さんを慕い各地から集まった仲間とともに制作に励んできた。

会場周辺は縄文時代の遺跡が発見され、土器などが出土する。佐藤さんが「1万5000年、争いがなかった」と話す縄文時代。ものを大切にしながら自然と共存するこの時代の生き方に傾倒し、作品作りや農業を実践してきた。そうした生き方に引かれ、国内だけでなく海外からも人が集うようになった。

会場には、佐藤さんの石彫をはじめ、廃材を利用したり、伐採した木をそのまま使ったりした作品などが点在する。これも、ものを大事にするという縄文の文化にのっとった考えからだ。

3棟の制作を目指し昨年からは進められてきた竪穴住居の制作は、会期中に来場者の手も借りながら2棟目の完成を目指す。

「限界集落」と豊実を評する佐藤さんだが、20年を振り返り人が集うようになったという手応えはある。「限界集落を面白くしたい。人と人のつながりが大事。希望を持っている」と力を込める。里山アート展は今回で終わるが、縄文を追求する活動に終わりはない。

里山アート展は11月5日まで。随時、来場者とユキツバキの植樹や土偶作りも行う。問い合わせは佐藤さん、0254(96)2003。

県内アーティスト集結  
パフォーマンス  
21日五泉で披露  
県内の役者や歌手などが参加する「新潟アーティストフェスティバル2023 Hello」が、21日午前11時から五泉市赤海のラポ